

盛岡を発掘する

平成28年度調査速報



いごう【遺構】

過去の人間が地面に残した不動産的痕跡。地下に埋没しているものばかりではなく、石垣や寺院などの建物の基礎、古墳の墳丘など地上で観察できるものも含む。

いしがき【石垣】

郭の縁辺部を取り巻く石積み等の壁体として、土塁・堀とともに入城する者の動線を規制し、防衛及び視覚上の効果を期待して設置しているもの。石垣は、盛土・切り土によって、旧地形を大規模に造成した郭の表面を覆い、外壁を支える「擁壁」としての機能を付与されている。

いせき【遺跡】

過去の人間活動の痕跡。遺構や遺物・遺物包含層のある場所を指す。全国にはおよそ四万ヶ所が数えられ、盛岡市内にはおよそ七八〇ヶ所が確認されている。文化財保護法では「埋蔵文化財(包蔵地)」と呼び、開発の前には発掘調査が義務づけられている。一般的には所在地や字名をもとに遺跡名をつける。遺跡は、人間の歴史を考える上で重要な役割を担う学術的資料であるばかりでなく、その地域のオリジナリティを体現する環境の一部である。

いづつ【遺物】

過去の人間活動の産物。土器や石器など、過去の人間が加工・製作した人工遺物と、動物や植物の遺存体など、人間活動の結果もたらされた自然遺物との二つに分けられる。

いづつぼうがんそう【遺物包含層】

土器などの遺物が含まれる土層のこと。雨などで土が流されたときに遺物が一緒に流されて堆積する場合や、不要になった土器などが捨てられて堆積する場合などがある。

えんけいしゅうこう【円形周溝】

円形の古墳の周囲を囲むようにして掘られている溝。直径は五～一〇メートル程で、円形や馬蹄形などがある。東北北部で多く見られる遺構である。周溝内からは、埋葬された人物へ供えられた須恵器や土師器などが出土することがある。



円形周溝 (下永林遺跡)

おとしあな【陥し穴】

動物を捕獲する目的で作られた、罠用の土坑。北海道・東日本を中心に分布し縄文時代の発見例が多い。陥し穴の開口部は円形や長楕円形で、深さ・形態は多様だが、底に向かって狭くなる形が一般的である。また、底に逆杭を立てた跡のあるものもある。

かめ【甕】

弥生時代以降の煮炊や貯蔵に用いられた容器の名称。縄文時代の丈の高い広口の器は、深鉢と呼ぶ。



土師器甕 (野古A遺跡)

ぐんしゅうふん【群集墳】 ある一定の地域にまとまった状態で古墳が作られている場所を言う。各古墳に關係性はなく、長い間に一つの墓地が自然と形成されたものと、ある一定の期間にいくつかの集落が、一定の地域に墓地を形成したものがあ。比較的小さい円墳が群在する状態のものが多い。

こぶん【古墳】

古代に造営された高塚を成す墓。高く盛り上げた土を墳丘と言い、その内部に遺体を納める。定型化した大型前方後円墳の出現が古墳の成立と見え、その影響を受けて造営された墳丘をもつ墓を古墳と呼ぶ。墳丘の周囲に溝をめぐらせるものが多い。

すえき【須恵器】

窯で千度以上の高温で焼かれた、暗青灰色陶質の土器。古墳時代に朝鮮半島伽耶地方の技術者が渡来し生産が始まった。ロクロを利用した成形技法と焼成技法に特徴がある。盛岡市内では八世紀以降に出土するようになる。

せきすい【石錘】

石製の錘。扁平な川原石を材料としている。網の下縁に一定の間隔で吊り下げるもの、釣り針に添えるもの、碇に結び付ける大型のものなど、多くの用途が考えられる。

せきぞく【石鏃】

矢の先につけて用いる小型の石器。縄文時代の石鏃はすべて打製であり、両面に細かく打製を加えた精巧な作りのもが一般的である。狩る獲物に対応させて大きさの違う石鏃を使い分けていた。

たてあな【竪穴建物】

地面を掘りくぼめ、上に屋根をかけた半地下式の住居。夏季は涼しく、冬季は暖かい。東北北部では縄文時代早期から古代まで続き、中世に入った後も半地下式の建物を利用して、縄文時代には床に炬が、古代には壁にカマドが備え付けられていた。



竪穴建物跡 (細谷地遺跡)

ちゅうこうどき【注口土器】

土瓶のように、器内の液体を注ぎ出すために注ぎ口を付けた土器。東北の後期末と晩期の亀ヶ岡式で著しく発達し、生産量が増える。



注口土器 (田貝遺跡)

つき【埴】

古代のもっとも一般的な食器。埴よりも浅く大型で、皿より深いもの。土師器や須恵器、木製品に多く見られる。時期や地域差で、丸底や平底、ふたの有無、高台の有無などの違いがある。

どろう【土坑】

人が意図的に掘った穴のこと。埋葬・貯蔵・ごみ捨て・粘土採掘・掘立柱など、多様な用途が考えられている。

はじき【土師器】

弥生土器の流れをくむ、野焼きで約七〇〇～八〇〇度の温度で焼かれた軟質の土器。素焼きで、赤・褐色系の色調。古墳〜平安時代のものを指し、中世以降の同系統の土器は「かわらけ」などと呼び区別することが多い。

ふかばち【深鉢】

口縁部が開き、底の深い鉢形の土器。縄文土器に対して使われる用語。底部に炭による変色がみられ、内外面に煤や炭化物の付着が多いため、主に食物の煮炊用に使われたことがわかる。

ほうすいしや【紡錘車】

長く繋いだ繊維に、撚りをかけて糸を作る時に使う錘。径三～五センチで形は円盤・球・円柱など様々。糸の太さによって、使う紡錘車の重さが異なってくる。

れきせつき【礫石器】

石器の材料である自然礫(川原石)を打ち欠いて製作した打製石器。石塊に剝離を加えて仕上げたもの。

盛岡市内の主な遺跡と時代

Table with 5 columns: 時代, 年代, 西暦, 主な出来事, 市内の主な遺跡, 28年度調査遺跡. It lists various archaeological sites and events from prehistoric times to the modern era.

平成29年2月4日(土)~5月21日(日)

盛岡市 遺跡の学び館

〒020-0866 盛岡市本宮字荒屋13-1 TEL 019-635-6600 FAX 019-635-6605

◆平成28年度調査成果報告会◆

小山遺跡・下永林遺跡・下田館跡 国指定史跡 盛岡城跡・山蔭焼窯跡

■日時 平成29年3月5日(日) 13:30~15:00

■会場 盛岡市遺跡の学び館 研修室(定員80名)

※入場無料、直接会場へどうぞ。

小山遺跡 (こやまいせき)

第41次調査 東中野

小山遺跡は、岩山南麓に形成された丘陵地および緩斜面に位置する縄文時代を主体とする遺跡です。以前より縄文時代中期の集落跡として有名な遺跡で、昭和33年に刊行された盛岡市史にも数多くの出土遺物が掲載されています。今回の調査では、盛岡市内では例の少ない縄文時代前期末葉～中期初頭の竪穴建物跡2棟と同時期の遺物包含層が確認されました。竪穴建物跡や遺物包含層からは、コンテナ約50箱の土器、石器が出土しました。特筆されるのは、川原石を使用した礫石器が多量に出土するなど、縄文時代の生活を知る上で重要な成果が得られたことです。



調査区全景

田貝遺跡 (たがいせき)

第16次調査 上鹿妻

田貝遺跡は史跡志波城跡の南西に隣接、雫石川南岸の沖積段丘上に立地します。今回の調査では、縄文時代の陥し穴状土坑3基、土坑1基、平安時代の溝跡1条、時期不詳の土坑1基などが確認されました。土坑からは縄文時代晩期前葉の注口土器と、石器の素材となる頁岩製の剥片が出土しました。溝跡は史跡志波城跡の外大溝跡でも確認されている、洪水による堆積が含まれます。この堆積層の形成時期ははっきりしていませんが、平安時代後期の11世紀前半と考えられます。



調査区全景

下永林遺跡 (しもながばやしせき)

第3次調査 津志田

下永林遺跡は都南地区に所在し、低位段丘上に位置しています。昭和10年に、この周辺から蕨手刀が出土し、昔は数基の蝦夷(エミシ)の塚があったと言われています。

今回の調査では、縄文時代の陥し穴状土坑1基、古代の円形周溝3基などが確認されました。円形周溝は古墳群に伴う遺構で、古代の人々にとって神聖な場所として使用されていたのではないかと考えられます。古墳に埋葬された人物への供物としての土師器の坏・甕などが、周溝内から出土しました。



円形周溝

台太郎遺跡 (だいたろういせき)

第87・88次調査 向中野

台太郎遺跡は盛岡市向中野地内に所在し、これまでに奈良・平安時代の竪穴建物跡700棟以上が確認されている、盛岡周辺で最大規模の古代の集落遺跡です。

調査の結果、奈良時代の竪穴建物跡1棟、竪穴跡1基、古代の溝跡1条、時期不詳の土坑1基などが確認されました。調査区西側の竪穴建物跡からは、土師器の小型甕や球胴甕、調査区中央の竪穴跡からは、土師器の坏や土製の紡錘車などの遺物が出土しています。



調査区全景

西鹿渡遺跡 (にしかどいせき)

第30次調査 三本柳

西鹿渡遺跡は雫石川南岸・北上川西岸に広がる旧河道によって画された低位沖積段丘上に立地し、これまでに奈良・平安時代の竪穴建物跡40棟以上が確認されている古代の集落遺跡です。

今回の調査では奈良時代の竪穴建物跡1棟が確認されました。竪穴建物跡からは北西側に2つ、北東側に1つの新旧3つのカマドの煙道が確認され、少なくとも3回ほどカマドを作り替えながら生活していたことがわかります。カマド周辺からは、土師器の坏や甕、土製の紡錘車などの遺物が多く出土しています。



遺物出土状況

国指定史跡 盛岡城跡 (くにしていせき もりおかじょうあと)

第36次調査 内丸

盛岡城は、旧北上川と中津川の合流点の丘陵を利用して築かれた平山城です。慶長2年(1597)に南部信直・利直によって築城が始まり、寛永10年(1633)南部重直が入城しました。以来、明治維新まで盛岡藩南部氏の居城でした。今年度は、史跡保存整備のため、御台所跡の内容確認調査を行いました。御台所は、盛岡藩の財政を司る役所です。今回の調査では、御台所跡の礎石建物跡が初めて確認されました。また、築城期の堀や土塁も確認されています。



礎石建物跡

平成28年度に発掘調査した主な遺跡

